



日々の取組

forチーム作り
forCMの芽

*交流授業研「相視相合」

*サークル
活動

習うけど
慣れよ

CM (教科等横断学習) の
日常化

日々の取組
forCMの深化

*教科等横断学習の
意識づけや慣れ

〈ミニCMの例〉

・中1「物語『少年の日の
思い出』にBGMをつけよう」
(国語・音楽)



・中3「令和の〇〇体操を
提案しよう」
(体育・社会)



次の学びに
生かす評価を

*評価

→カリキュラムマネジメント・
モデル その3
(次年度の、その1)

*他地域からの評価

*実態調査

*卒業生への追跡調査



カリキュラム・マネジメントの手引き

～資質・能力育成に向けたリアルな
学習デザイン実現の処方箋 vol.2～

令和3年度～4年度 文部科学省委託事業
「これからの時代に求められる資質・能力を育む
カリキュラム・マネジメントの在り方に関する
調査研究」

発行日 令和5年2月24日

発行者 福岡教育大学附属小倉中学校

〒802-0023

北九州市小倉北区下富野三丁目12番1号

TEL 093-541-8621 FAX 093-541-1250

HP <https://kokurajs.fukuoka-edu.ac.jp>

MAIL kuracyu@fukuoka-edu.ac.jp

ご指導いただいた先生方及び研究同人



印刷 株式会社ページ

〒808-0143

北九州市若松区青葉台西6丁目2-9

TEL 093-701-6637

本研究にあたっての
参考文献リスト



カリキュラム・マネジメントの
手引き

～資質・能力育成に向けた
リアルな学習デザイン実現の
処方箋 vol.2～

福岡教育大学附属小倉中学校

学校の教育目標を
達成するための
チームを作ろう!

*前年度の評価をもとに計画
→カリキュラムマネジメント・
モデル その1

*ビジョン、課題意識
の共有

*生徒質問紙を活用した
実態調査



*中間評価 (10～11月)

→カリキュラムマネジメント・
モデル その2

*教科等横断単元構想の
アイデア交流



大きな実践
向けて...

*プロジェクト型学習の始動

・2年生 ・3年生



*生徒主体の学び

私たちの学びなので
授業づくりにも
参加します。



私たちの学びなので
よりよい授業づくりを
目指して評価します。



(この処方箋は、どの地域の、どの学校でも有効です。)

カリキュラム・マネジメントとは？

「社会に開かれた教育課程で汎用的な資質・能力の育成」の実現を目指す、カリキュラム・マネジメント（CM）。

- ①教科等横断的な視点
- ②教育課程の評価・改善
- ③人的・物的体制の確保・改善・活用

この「カリキュラム・マネジメントの3側面」は相互に必要な視点であり、どれも効果的に実施することで、学校が目指す生徒の育成の実現が可能になります。

つまり、カリキュラム・マネジメントは、学校教育目標を達成するための手立てであり、「人的・物的資源を活用」し^①、深い学びになるよう「評価・改善を繰り返す」ながら^②、「教科等横断的な視点で」これからの社会を生きていく子どもたちに必要な教育の内容を組織的に配列していくこと^③なのです。

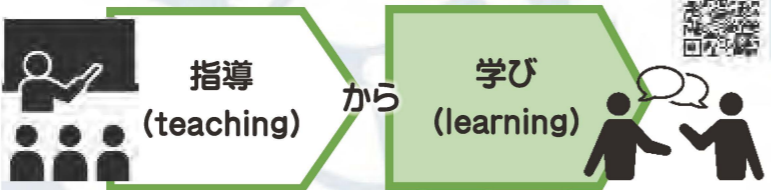
本校では、「創造的実践人の育成」という学校教育目標のもと、目指す資質・能力を具体化し、その実現を目指してカリキュラム・マネジメントを行っています。



附属小倉中型CM① ~プロジェクト型学習~

今次の教育課程改訂で求められたリアルな学び。「使える」場面、「できる」場場所が現実的であればあるほど、生きて働く力を育成することができます。生徒が知識や技能を使って、課題に取り組み、そこで実際に発揮された力をパフォーマンスから見とるそういった「パフォーマンス課題（P課題）」を、現実生活の課題と類似したリアリティのあるものにすることで深い学びの実現を目指します。

さらには、「自分にとって」「友だちにとって」「社会にとって」意味があるプロジェクトであることが、子どもにとっての学び意義、目的意識、切実感を生み出します。本校では、この「プロジェクト」（学び）に向かうための文脈づくりを丁寧に行っています。



- 【プロジェクト例】
- 「自分自身の生き方に関すること」
 - 「学校の在り方に関すること」
 - 「地域や社会の在り方に関すること」



附属小倉中型CM② ~企業・行政との連携~

「企業や行政と連携する」ことで、リアリティのある、ホンモノの、現実に即したダイナミックな課題の設定を可能にしています。

【事例1】『SDGs 未来都市北九州市』を市民に浸透させるための図書館展示企画書を提案しよう』

北九州市との連携で学びを深めた事例。各教科の学びを生かして企画書を作成し、「子どもだから」の忖度なしで評価していただく。その結果、「採用ゼロ」でしたが、生徒にとって意味のある「採用ゼロ」です。

【事例2】『(株)小倉縞縞の新品を開発し、提案しよう』

地域企業との連携で学びを深めた事例。新品開発のために必要だと思う教科の学びを生徒自ら見出し、学んだことを活用して取り組みました。

- *SDGsという共通の目標を持った相手との協働
…学びが社会とつながる、社会に役立つ実感
- *「中学生ならではの」視点を求める企業や行政への貢献

附属小倉中型CM③ ~生徒主体の学び~

P課題の解決にあたって、生徒は身につけた知識や技能、見方・考え方を、自覚的に働かせる必要があります。さらにそれがリアリティのある、ホンモノの課題であればあるほど、課題解決の姿にも「ホンモノ」の姿が現れます。

【授業づくりへの参画】

- 生徒会、学習委員、実行委員等によるプロジェクトの企画・提案
- 授業に関わる全生徒によるアイデア出しと、それに基づいた各教科等の授業

教科の役割や教科「ならでは」の学びを重視

- スケジュール管理、進捗確認、見直しや修正も教師はアドバイザーであり、コーディネーターであり、ゲートキーパーなのです！

【学びの評価】

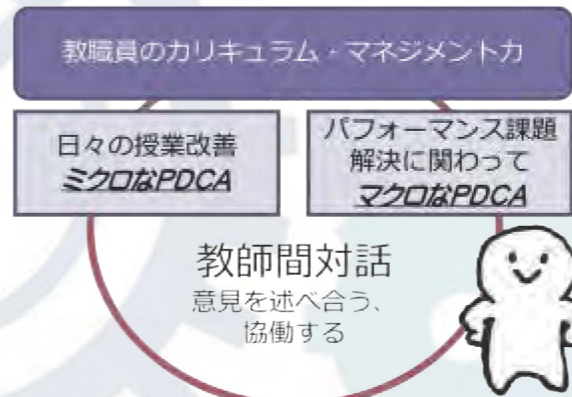
- 生徒が作成した授業評価シートの活用（自己評価、他者評価）
- *自分たちの「学びの在り方、姿」を評価する
- *教師の支援について評価する

附属小倉中型CM ~計画・評価・改善について~

プロジェクト型学習としての教科等横断的な学習は、年間に何回もできるものではありませんが、日々の授業において、「教科等横断的な視点」「CMの見方・考え方」を身につけることが効果的にカリキュラム・マネジメントを実施する上で必要です。学びが「他教科の学びとつながる」「自分の知識とつながる」「自分の将来とつながる」「社会とつながる」経験を重ねる中で、自ら「つなげる」ことができるようになります。

本校では、まずは、教師が「つなぐ」見方・考え方を身につけていくための計画・評価・改善を行っています。

- ▶目指す生徒像、課題意識の共有（人をつなぐ）
- ▶年間指導計画を持ち寄り、教科等横断的な学習での学びの深まりをねらった計画の見直しを行う（教科をつなぐ）
- ▶日常的な授業参観、意見交流を行う
 - ・チームとしての意識の高まり
 - ・同教科、他教科との意見交流、授業改善
 - ・教科等横断的な視点を養う



- ▶前年度の評価*をもとに計画を立てる（成果、課題をつなぐ）
- ▶生徒質問紙を活用した実態調査（2回）
- ▶中間評価*（10月頃）を行い、計画を見直す
- ▶年度末評価*を行い、次年度につなぐ
☆は、田村知子氏のカリキュラムマネジメント・モデル（2011、2022）を参考に作成するもの
- ▶他地域からの評価
- ▶卒業生への追跡調査

附属小倉中型CM ~4類型の提案~

【教科等横断のための関連づけの類型】（小倉中 2022）

原理	類型	教科等横断の方法
学習内容ベース	①内容関連型	複数の教科等が関連する内容によって、結びつけられるもの。
	②道徳科内容項目関連型	いずれかの教科等の目標達成のために、ほかの教科等の内容を関連付けたもの。
資質・能力ベース	③総合的な学習の時間関連型	総合的な学習の時間の目標や内容に向かって、各教科等を位置づけたもの。 ※現代的な諸課題の問題発見・解決に関わって、総合的な学習の時間を核とする場合は③に含む。
	④統合的活用型	現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成に向けて、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等、学習の基盤作りに必要な力の育成をふまえ、各教科等を位置づけたもの。

【 類型別プロジェクト例 】

